

2018年国際博物館の日記念シンポジウム 開催案

1. 日 時 2018（平成30）年5月19日（土）13：30～17：00
2. 場 所 大阪歴史博物館講堂（大阪市） 4階・座席数250席
※事前申し込み不要（当日会場にて先着順に受付けます）
3. 主 催 ICOM 京都大会組織委員会、ICOM 日本委員会、公益財団法人日本博物館協会
4. 共 催 文部科学省、ICOM シンガポール国内委員会（予定）
5. 後 援 大阪市、公益財団法人大阪市博物館協会、関西博物館連盟、全日本博物館学会、日本展示学会、日本ミュージアム・マネジメント学会ほか（予定）
6. 趣 旨 1年4か月後に開催を控えた ICOM 京都大会に向けて、文化財保護法改正や文化庁移転等の検討が進む中で、どのように我が国の博物館振興を図っていくべきか、海外招へい者による諸外国の事例紹介も参考にしながら国際的な動向を踏まえ議論する。あわせて、2018年の国際博物館の日のテーマである「Hyperconnected museums: New approaches, new publics（新次元の博物館のつながり－新たなアプローチ、新たな出会い－）」に関連して専門家の意見も踏まえ、将来の博物館像について考察する。

7. 登壇者

（基調講演及びパネル・ディスカッション 助言）

- ・ Terry Simioti Nyambe（ICOM 執行役員、ザンビア）
- ・ Jose Alberto Ribeiro（ICOM ポルトガル国内委員長）
- ・ Alvin Tan Tze Ee（ICOM シンガポール国内委員長代理）

（パネル・ディスカッション）

コーディネーター

- ・ 本間 浩一

（慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所研究員）

パネラー

- ・ 佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸課長代理）
- ・ 土屋 隆英（森美術館企画グループ課長 インターナショナル・プログラム・マネジャー）
- ・ 鬼頭 智美（東京国立博物館広報室長）

8. プログラム

13:30-13:40	開会のあいさつ
13:40-14:10	基調講演 I Terry Simioti Nyambe (ICOM 執行役員、ザンビア)
14:10-14:40	基調講演 II Jose Alberto Ribeiro (ICOM ポルトガル国内委員長)
14:40-15:10	基調講演 III Alvin Tan Tze Ee (ICOM シンガポール国内委員長代理)
15:10-15:20	休憩
15:20-15:35	ICOM 京都大会準備状況説明 栗原 祐司 ICOM 京都大会運営委員長、京都国立博物館副館長
15:35-16:55 (80 分) プレゼン 10 分×4 名 ディスカッション 40 分	パネル・ディスカッション コーディネーター ・本間 浩一 (慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所研究員) パネラー ・佐久間 大輔(大阪市立自然史博物館学芸課長代理) ・土屋 隆英(森美術館企画グループ課長 インターナショナル・プログラム・マネジャー) ・鬼頭 智美(東京国立博物館広報室長)
16:55-17:00	閉会のあいさつ

(参考)

2018 年国際博物館の日のテーマ

「Hyperconnected museums: New approaches, new publics」について

「新次元の博物館のつながり－新たなアプローチ、新たな出会い－」

(ICOM ホームページより)

1. **Hyperconnectivity** (高度なネットワークの接続性) とは、対面的な接触、電子メール、インスタントメッセージ、電話、インターネットなど、私たちが今日有するコミュニケーションの様々な手段の構築するなかで 2001 年に生まれた造語である。このグローバルなつながりのネットワークは、日々、複雑化、多様化し、融合している。ネットワークの接続性が高度化した (**hyperconnected**) 今日の世界において、博物館はその流れの中にある。このことが、ICOM が **Hyperconnected museums: New approaches, new publics** を 2018 年国際博物館の日のテーマに選んだ理由である。
2. 博物館の役割を理解することは、博物館が取り結ぶ様々なつながり (**connections**) を考慮にいれることなしには不可能である。博物館はそれぞれの地域社会、その文化的景観と自然環境の固有の一部である。科学技術により、現在、博物館はこれまでの中核的な来館者の枠を超えて、これまでと異なる方法で新たな大衆に働きかけることができる。収蔵品のデジタル化、展示へのマルチメディアの導入、あるいは来館者がソーシャルメディア上でハッシュタグを使って体験を共有することなどがそれである。
3. しかし、これらのすべての新たなつながり (**connections**) が科学技術によるものではない。博物館が社会における存在意義を維持する努力を続けるにあたり、博物館は、地域社会と地域社会を構成する多様な集団に関心を移している。その結果、ここ数年、博物館がマイノリティ、先住民族や地元機関と共同で実施する数多くのプロジェクトが誕生している。そのような新しい大衆を取り込み、それらの人々の博物館とのつながり (**connections**) を強化するために、博物館は収蔵品に関する解釈と展示の新しい方法を見いださなければならない。
4. 我々は、世界中のすべてのタイプの文化施設に、国際博物館の日の祝賀に加わり、それぞれのコミュニティ、文化的景観と自然環境とのあらゆるつながり (**connections**) を探求することを通じて収蔵品に対するアプローチを見直すことを呼びかける。

(国際博物館の日 40 周年)

ICOM は、1977 年に国際博物館の日を創設した。第 1 回目は、博物館は文化交流を進め、文化の豊かにし、民族間の相互理解、協調と平和のための重要な手段であるというメッセージを広めるという明確な目標をもって 40 年前に初めて実施された。2017 年には、国際博物館の日は 157 の国と地域の 3 万 6 千の博物館がこれまで最高の参加実績を記録した。